

# APEX CLUB

アペックス産業株式会社 第36号

## 『APEX CLUB』

発行 2013年11月1日(通算36号)  
発行所 アペックス産業(株)「APEX CLUB」編集委員会  
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4  
電話03-3455-6474 FAX03-3455-6558  
ホームページ <http://www.apex-sangyo.jp>  
発行人 元木 貢 (編集委員)山口力広、高塚章夫  
佐々木 健  
(事務局)齊藤久美

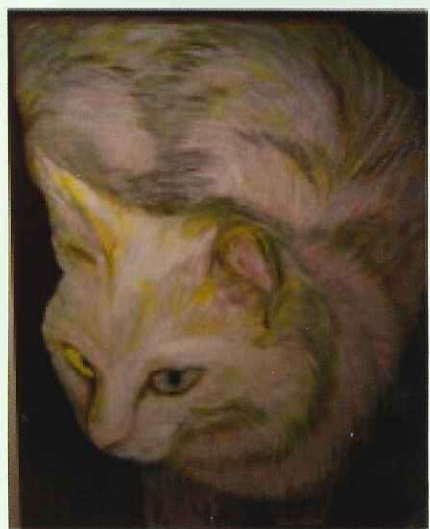
ご用命・お問い合わせ先  
アペックス産業株式会社  
電話 03-3455-6474  
FAX 03-3455-6558

〈詳しいご案内は当社のホームページをご覧ください〉  
URL <http://www.apex-sangyo.jp>

●切り取って保存してご利用ください。  
キリトリ線

## ギャラリー

綾展



「猫」益田陽子 F30



「クロッキー・刻」堀桂子 F50



「山間の紅葉」宇津木和夫 F15



「残雪」元木貢 F50



セアカゴケグモ

## おじやま虫

Q&A

**Q セアカゴケグモってどんなクモですか?**  
A 雌で体長一センチ程度の黒いクモで、背中に赤い菱形が連なったような模様があります。屋外の排水溝内や、プランターの隙間、植木鉢の下などに営巣し、乱れたかご状の巣をつくりつづめます。一九九五年に毒グモ騒ぎで有名になり、関西を中心に生息域を広げています。近年では首都圏でも発見されています。

**Q 咬まれるとどうなりますか?**  
A 攻撃性の強いクモではありませんが、知らずに触れたりした場合、咬まれることがあります。毒を持っていて、咬まれると激しく痛み、局所の腫れが見られます。数日で回復しますが、まれに目まい、嘔吐から、呼吸困難などの全身症状を引き起こされることがあります。抗毒素血清がありますので、咬まれたらすぐ医療機関に相談してください。

**Q 駆除・対策はどうすればいいですか?**  
A 市販のエアゾール剤を生息箇所に噴霧することで駆除できます。人が手を触れない箇所に営巣するため、建物周囲は整理整頓を心掛け、外での清掃作業の際には、軍手などの手袋をしてください。また、靴への侵入を防ぐため、靴を外に脱いだままにしないよう心掛けてください。

綾展は女流画家・故桜井浜江先生の教え子を中心となっており、2年前から2年ごとに開催しているグループ展で、今回は第2回となります。

桜井先生は、1908年山形市出身、親の反対を押し切って上京し、里見勝蔵の指導を受けました。自宅は、夫の秋沢三郎の文学仲間だった太宰治や檀一雄、井伏鱒二など文士の溜まり場となりました。傍若無人の太宰らへのおもてなし振りが太宰の短編「饗応夫人」のモデルとなりました。

1931年の第1回独立展に入選以来、一貫して同展に出品を続け、1947年に三岸節子らと女流画家協会を設立、女流画家の草分け的な存在となっています。

1998年10月3日、NHK総合テレビ「土曜の美の朝」で、90歳を記念して、画家生活67年の先生の澆刺とした様子が放映されました。

アトリエの教え子と顧問をされた東京女子医大職員美術部とによる「ドレ展」は38回に及びました。



東京女子医大で指導にあたる桜井浜江先生

## むし籠

わが社の禁煙事情



禁煙でストレスが溜って、逆に体に悪いと、正当(う)な理由を述べながら、T氏は今日も、いそいそと屋上への階段を上って行く。

喫煙歴四十一年のT氏、実家がある京都への往復に利用する東海道新幹線には、喫煙車両や喫煙コーナーがあるのを楽しんでいる。シートに座って車窓を眺めながらの一本は、何物にも代え難い落ち着きを与えてくれると言う。

一方、当社では十年前には二箇所あった社内の喫煙場所が、二〇一〇年に四階の換気扇前の一箇所となり、さらに今年九月からは社内環境改善の一環として、全館禁煙となった。

おまけに近くの公園の喫煙場所も、今年五月に灰皿が撤去され、愛煙家のT氏にとっては、今や四面楚歌の喫煙環境だ。

いっそ禁煙宣言をと、苦渋の決断を迫られているT氏だが、それでも煙草を手放すつもりはない。資料を読み込む時や気分転換、食後の一本の時は、屋上に出て禁煙を楽しんでいる。

もちろん、全館禁煙実施後の事務所の内の空気が実に清々しく、いかに煙草の煙が空気を汚していたかは、充分に痛感しているのだが、わかっちゃいるけどやめられないのが煙草の魅力。

## 虫めがね

ベトナムPCO講座

長崎大学熱帯医学研究所の高木正洋名誉教授からの要請により、ベトナムで、「日本の害虫防除の変遷」、「IPM(総合的有害生物管理)」、「トコジラミの日本の現状と対策」についてお話ししました。

ベトナムは熱帯地で、蚊が媒介する Dengue 熱やマラリアをはじめ、動物媒介性の感染症の多発地帯です。

フランスの植民地時代にパスツール研究所として、熱帯病の研究施設だったものが、現在は国の感染症研究所となり、長崎大学熱帯医学研究所が支援、ベトナム拠点として日本人の研究者が常駐しています。

急速な都市化により、ゴキブリやネズミなど都市害虫の対策の必要性が高まったことから、防除技術者の養成を行う必要性がでてきたものです。



サイゴンの街は、日本製のバイクと車と人で溢れかえっていました。インフラはまだままで、信号も少ないうえ、ほとんど守られていません。双方向からバイクと自動車がスクランブル状態で通過します。その中を通行人は悠然と道路を横断します。

聞くところによると、急ぐと車が避けられないので却って危ないそうです。日本は交通ルールが徹底していますが、却って見込み運転で事故が多いようです。

日本人は生きていく上で必要な動物的直観が薄れてきているのでしょうか。